

朝日連峰大朝日岳山麓

ハチ蜜の森から

No. 31



第10回 大暮山分校白い紙ひこうき大会 最終大会 2008.8.10 日本晴れ
撮影 / 荒谷良一氏 (東京都・写真家)

ハチ蜜の森

採蜜ができるトチやキハダをはじめマンサク、コブシ、カエデ、ヤマザクラ、ドウタン、ウワミズザクラ、ミズキ、クリ、ハクウンボク、タラ、コシアブラ、センノキ、ヌルデ、クズ、イタドリ...と、数多くの蜜源樹や植物を抱える森のこと。ハチ蜜の森キャンドルは、その森の入り口にあります。

編集発行

ハチ蜜の森キャンドル

代表 安藤 竜二

☎990-1573 山形県朝日町立木 825-3

☎とファクシミリ 0237-67-3260

メール mitsurou@alto.ocn.ne.jp

ホームページ www.mitsurou.com/

発行日 2009年1月17日

木造校舎のある公園

山形県朝日町に、日本で初めての“木造校舎のある公園”ができて10年がたちました。

木造校舎はまもなく110歳を迎える旧大暮山分校です。20年前の1999年に校舎の老朽化や児童数減少に伴い閉校し、解体されることになっていましたが、校舎の二階から紙飛行機を飛ばす“白い紙ひこうき大会”が人気を博し、解体は延期されました。そして、10年前の2009年に再び取り壊しが計画されましたが、若者達の厚い願いを町は聞き入れ、校舎を彼らに譲ってくれたのでした。

公園といっても、一見するとグラウンドの桜の木の下に「ベンチ」を三つ設置してあるだけです。学校だった20年前の風景と、さほど変わりはありません。しかし、このベンチは寝っ転がって読書をしたり、お弁当を食べたり誰でもがのんびりできる大切な場となっています。

そして、イモリの池になっていた小さな「プール」は、三年前に新しい浄化槽が設置されついに甦りました。今では大きな町民プールよりも人気があるようです。

そして心配された「白い紙ひこうき大会」は、無事再開し、今年20回大会を迎えるに至りました。昔参加していた子供たちが自分の子供を連れて参加してくれます。20位までの記録は体育館に掲示してあるので、昔出した自分の記録を子供に見せて自慢する人もいます。

そして日曜日は「チャレンジ白い紙ひこうき大会」といって、公式記録にチャレンジすることができます。大会と同じで大人500円・子供300円のシャボン玉付きチケットを購入して4回まで飛ばすことができます。校庭には円盤投げのような計測ラインが埋め込まれています。地元の川口靖晃君が中学一年の時に出した最高記録37.3m地点には金色のラインが埋め込まれています。あれから17年もたつというのに未だ誰にも破れない記録です。シャボン玉は飛ばし終えた人が楽しめますが、その中を白い紙ひこうきが飛ぶ美しい風景を見ることができます。



そして第一と第三日曜日には、大会の守り神であり、すっかり人気キャラとなった大黒様の「大黒舞い定期公演」が行われています。春は桜吹雪の舞、夏は太陽の舞など季節ごとの舞を披露しています。近頃はワイヤーアクションで空中も舞っています。ご利益の噂を聞きつけた人が遠くからわざわざ訪れるようになり、今や東北を代表するエンターテイナーとなりました。

そして人気なのが、日曜日限定の「バーガーショップ」です。これはただのハンバーガーではありません。大黒様の思い出の味を使っています。大黒様の長岡清一郎さんは分校の出身ですが、冬は雪に閉ざされてしまうのでパンが届かず、給食のおばさんだった長岡美江子さんが朝早く起きて“蒸しパン”を作って下さったのだそうです。大黒様はその優しいパンの味の思い出が“宝”だと言います。みんなはたまらなくなり美江子さんに教わり再現しました。やはり、懐かしくてやさしくてとても美味しい味でした。開店にあたり、料理好きな仲間がハチミツやりんごジャム、カレーなどいろいろな蒸しパンメニューを考えてくれました。その中で一番人気なのがヘルシーな「蒸しパンダチョウバーガー」です。細かく刻んで煮込んだダチョウ肉とレタスやクレソンが、蒸しパンにぴたりなのです。春は山菜も挟まれます。蒸しパンには打出の小槌の小さな焼き印が押されています。ご当地バーガーブームに乗っかり、いつもあつという間に売り切れてしまいます。

そして校舎に入ると、器や家具、鞆、服、靴など「工芸品の販売」がされています。公園運営の仲間には、元家具職人や器用な人が何人もいましたから、校舎の修繕費を稼ぐために体育

館を使って日本では初めての「木造校舎の椅子・机製造工場」を稼働させたのです。大暮山分校で使っていた椅子・机と全く同じデザインにして作っています。これが昭和ブームに乗り大当たりとなりました。材料はその後解体された和合小や三つの保育園舎の木材を再利用しています。近くわかば保育園の講堂をそのまま倉庫にしてありますが、まだまだたくさんの材料が残っています。この椅子・机は10年、20年と使えば使うほど味のあるものになります。何年か前には、「作った人の心のこもったものを長く大切に使う喜び」を教える先進的な都会の学校に頼まれて、300人分を作ったこともありました。おかげで近頃はインテリア雑誌などにも頻繁に紹介されるブランドになりました。注文はお早めどうぞ。

そして、せっかくなので理科室と二階の両はじの三つの教室は「大暮山分校ものづくりトキワ荘」として、若いものづくり作家に工場（こうば）として貸しています。家賃は一年で10000円なので、まだ仕事場を持ってない若い作家たちに大変喜ばれています。日曜日には自由に販売をすることもできます。体験をさせて収入を得ている人もいます。家賃や売上の20%は校舎の維持費に充てられますし、器用な若者達は痛んだ校舎も直してくれますから、お互い一石二鳥なのです。ただし、ここにはルールがあります。教室は3年で新しい若手に譲らなければなりません。ですから、みんな三年後の独立を目指して必死に頑張るのです。若者達はお年寄りの方の雪下ろしや八幡神社のお祭りも手伝ってくれるので、地区の人達は心から応援したくて、野

菜や手料理を度々差し入れてくれます。時には食事に招いて夢の話をたっぷり聞いて下さる方もいらっしゃいます。親戚縁者への作品の売り込みも欠かせません。これまで9人の作家が巣立っていきましたが、有名作家になった0Bの一人は、「あの3年間でなかったら今はなかった。地元の方の応援がいつも励みになった」と雑誌のインタビューで答えてくれました。履歴にもしっかり「大暮山分校ものづくりトキワ荘出身」と書いてくれます。嬉しいことです。

そして飛行場になっている真ん中の教室は、空いている所は一日3000円で誰でも使えるリースペースになっていて、毎週いろんな展示や催しが行われています。

そして、大暮山分校を起点にして「観光ツアー」も盛んに行われています。分校から1キロ程の松保という所に「東北の縄文杉」と呼ばれるものすごく太い大杉があるのです。この杉を見た人はみんな畏敬の念にかられ、自分中心のちっぽけな人生を恥ずかしく思ってしまう。しかも地球にやさしいエコロジーな気持ちもむくむくとわいて来るのです。歩いて小一時間のハイキングコースになっていますが、日曜日に運行する「耕運機ツアー」がとても人気です。秋には芋煮会も行われます。大杉のまわりの減っていた水田もファンクラブの「田んぼ体験」によって昔のように作られるようになりました。大杉が元気でいられるのは水田があるからなのだそうです。

そして、大暮山地区には薄命の美人を祀った「お姫壇」があります。いわれは残念ながら分かりませんが、この地区に美人が多いのは、こ



のためという噂が広まり、今では立派なお堂も立ち、芸能人やニューハーフもお忍びでやってくるようになりました。

そして、国の名勝地に指定されている葦の島が浮遊する「大沼の浮島」が近くです。歴史や信仰を尊ぶ人が来ると浮島は喜んだように動き回ります。一列になって迎えてくれることもあります。運がよければ夕方に狐火や、お燈明が宙を舞うのを見たりすることもできます。

そして、もう少し下った八ッ沼地区には七不思議伝説があって奇妙な牛のようなカエルのような化石があります。運が良ければ動くのを見られます。他にも金の鶏が飛んだり、子供の好きな地蔵様が歩きまわるのも見られます。池を掃除するきれいなお姫様とも会えます。

そしてここにも、三中分校という明治15年の木造校舎があります。丸窓のある三階は、昼は「茶房」になり、抹茶と西松屋菓子店のおいしい和菓子も楽しむことができます。夜は夜景を楽しみながら朝日町ワインや地酒豊龍を楽しむ「がっこバー」になります。昼間は誰も気付きませんが、校舎の板壁の隙間にエコなLEDの小さな電球が埋め込まれ、昼間溜めておいた太陽電池で校舎をおもいきり派手に「イルミネ」しています。最初は「文化財になってことする！」と怒られましたが、おかげで話題になり、建物維持の寄付もたくさん集まるようになりました。茶房とがっこバーは和洋二つの顔を持つ分校出身の富樫千鶴さんがあたっています。

いつのまにかこの観光ルートはミステリロマンチックコースと呼ばれるようになりました…

そして…

そして、目が覚めました。

2009年正月

※実行委員会ですべて話合ってきた夢の構想を封印するのは忍びなく、ここに紹介させていただきます。

NEWS (表紙紹介)

大暮山分校白い紙ひこうき大会最終大会

私が実行委員長を務める第10回白い紙ひこうき大会が日本晴れの8月10日に開催されました。2009年度校舎解体が予定され最後の大会となりました。参加者数301人、スタッフ数55人、大掃除草刈りボランティア52人、ブログで紹介された数26件以上、アマチュアカメラマン数約20人、観戦者約30人。例年の三倍の人達が大暮山分校に集まってくれました。

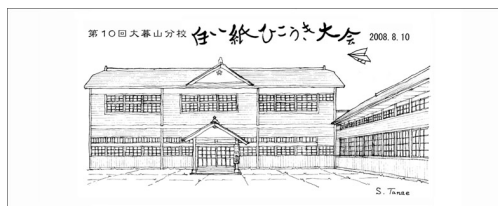
大会当日は、なんだか「終わり」という気がしなかったのですが、今頃になって寂しさが膨らんできました。「他の学校で」とよく言われますが、実行委員一同とても考えられません。

素敵な木造校舎に素敵な人々が集い、あつたかくて優しく懐かしい、こんな素晴らしいイベントは日本唯一でした。参加者に感謝、協力者に感謝、校舎に感謝、そして仲間たちに感謝！本当にありがとうございました。

大会の様子は公式サイトをご覧ください。

<http://samidare.jp/ryuzi/>

記念手ぬぐいを配りました



山形市で設計事務所を営むスタッフ仲間の田苗重樹さんのイラストで素敵な手ぬぐいを作り、お世話になった大暮山地区の皆さんに配りました。

今後の旧大暮山分校舎について

所有者の朝日町に「せめて建っているうちは建たせておいて、みんなの心の風景にしておいて欲しい」と願いましたが、2009年度の解体予定に変更はないとのこと。最後にオークションにかけてと言われ、一時ときめきましたが、「別の場所への移築が前提」という条件つきでした。どうやら解体は免れないようです。

20年前の蜜蝋キャンドル



昨年の9月、神奈川県の葉山町に住む田中愛弓様より素敵なプレゼントをいただきました。

「20年の歳月を思うと、もった

いなくて使えそうにないので」とのこと。なんと私の駆け出しの頃の蜜ロウソクです。当時はまだめずらしくて、使えずにしまっておいて下さったのだそうです。

ドキドキしながら油紙のようになった包みを開くと、ストレートとハニカムタイプのかわいらしいロウソクが二本入っていました。まるで若い頃のアルバムを開いたような懐かしさと小恥ずかしさを感じました。そして、その頃お世話になっていた皆さんのことが次々と思い出されました。

20周年の年に励みになるものをいただきました。時々初心に戻るために眺めたいと思います。本当にありがとうございました。

二階体験ルーム内装完成！

長岡昂司氏絵画展 開催



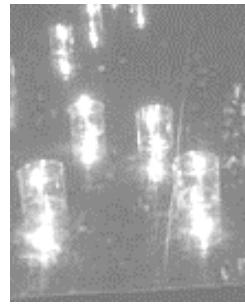
10年前に建てた工房の二階を体験専門に使っていますが、内装は予算の都合で未完成でした。板壁の隙間からは、風はもちろん越冬するカメムシやいろんな虫たちが入り放題だったのです。20年を記念に大工さんに内装していただき、夏前についに完成しました。やはりプロの仕事ぶりは違いました。

完成してまもなくのこと、大工の長岡昂司さんが一枚の絵を完成祝いに持ってきてくれまし

た。それは私の工房の絵でした。しかも、背景にコンセプトである大朝日岳と満開の蜜源樹トチノキを組み合わせてありました。一目惚れの絵でした。話がはずみ、完成記念に新しい内装の壁を使って長岡さんの絵画展を開きました。長岡さんは朝日山岳会や山岳救助隊に所属する山男で、先祖は町内の神社などを手がけた有名な宮大工です。長岡さんが描いた数々の朝日岳の絵は多くの人を魅了しました。

洞爺湖サミット記念キャンドルナイト

空気神社でエコスタ！



南の島国ツバルやキリバスは温暖化による海面上昇で沈みかけているのに！朝日町は、17年も前に「空気神社」を作り、日本ではじめて「地球にやさしい町」を

宣言した町なのに！環境に対する姿勢は希薄になっているのではないかと？

洞爺湖サミット開催前夜の七夕。白い紙ひこうき大会とアットホームの若者達と「エコスタ」（エコロジーをリ・スタイル・スタディ・スタート）というイベントを空気神社で開催しました。会場では、全国の環境活動を紹介するパネル展、蜜ロウソク作り、七夕エコ短冊、廃材おもちゃ、再生封筒作りなどのエコロジー体験ブースを作り来場者と楽しみました。

そして夕方には、参加者が手作りした蜜ロウソクで空気神社や森を照らしました。ロウソクは3本で電球1個分の二酸化炭素を出すそうです。石油で作られるパラフィンロウソクは地球上に二酸化炭素を増やしてしまいましたが、蜜ろうや木ろう、植物系や廃油ロウソクなどは、元々自然のものなので増やす計算にはならないとのこと。とはいえ、数を競わず1人1本合計70本の灯りにエコな願いを込めました。

最後に平原綾香の「星つむぎの歌」を合唱し実行委員長の鈴木秀和君（アットホーム）が、改めて環境を意識し生活しようと宣言しました。



『食堂かたつむり』
小川 糸 著 (ポプラ社)
1300 円

ある日友人が出張先の新幹線から、出張していた私の新幹線に電話をくれました。

「小川糸さんと知り合いですか？蜜ロウソクが出ています！」と。さっそく購入して読んでみました。いい本を読んだあとに感じるいつもの独特な感動にしばらく浸ることができました。

文中、蜜ロウソクはこんな感じに登場します。主人公の倫子は、失恋の痛手から故郷に戻り、食堂“かたつむり”を開店しますが、彼女の料理はなぜか食べる人の願いを叶えてくれます。ある日、一人の女の子が思いを伝えたい男の子を連れてきました。倫子は二人に思いをこめて野菜スープを作りました。途中うす暗くなったので、蜜蠟キャンドルに火を灯しました。おかわり用のスープも全てたいらげた二人はテーブルの下で手を繋いでいました。幸せのお手伝いできた倫子の胸にも蜜蠟キャンドルの明かりが灯りました…。

近くの山形市出身の作家とはいえ、私の蜜ロウソクをイメージなさったかどうかは定かではありませんが、ストーリーの中で恋愛成就のために蜜蠟が一役かえたことがとても嬉しかったです。なにしろ私の蜜ロウソクは、恋愛成就に本当に良いらしくお客様からの感謝の報告をたくさんいただいているからです。独身のみな様どうぞお試しください。

黒酢ハチミツドリンク

ドラッグストアなどで黒酢を見つけるたび、ふっと懐かしく酸っぱい思い出がよぎります。

中学生の頃、玄米黒酢に母がハマっていたことがあったのです。持病の高血圧を考えてのことだったそうで、私たち子供たちも毎日のように付き合わされました。黒酢は水割りだけではふるえる程酸っぱく、ハチミツを入れてもまだ酸っぱくて、渋々飲んでた記憶があります。しかし、毎日飲んでいるとだんだん慣れてきて普通に飲めるようになったものでした。

黒酢の効用を調べてみると、やはり高血圧を予防する働きが一番にあげられています。そしてサラサラ血液を作り、活性酸素をブロックする抗酸化作用をもたらし、神経系に作用し精神安定をはかり、さらに抗アレルギー効果や免疫機能を活性化させるなど、優れた効果には切りがありません。そこにビタミンやミネラルの宝庫のハチミツを入れるわけですから、現代病を予防する最強のドリンクと言えるようでした。

というわけで、我が家でも実際に飲み始めました。子供たちは渋々飲んでいるようです。(笑)
※ハチミツ 1：黒酢 1 に混ぜたものを、小瓶に詰めておくとう便利です。5倍位に水でうすめてどうぞ。

ハチ蜜の森料理店の開店の目処は未だたっておりません。もう暫くお待ち下さい。

ご紹介いただきました！

- NATIONAL GEOGRAPHIC 日本版 11月号
ZIP JAPAN 郵便番号を旅する
- basket. (主婦の生活社)
雑貨の達人が選ぶ逸品手帖
- &I No.1 (クラスティーナインターファニチャー社)
あの人に贈りたい雑貨
- All About (サイト)
秋の夜長にぴったり！エコなキャンドル
- お天気キャスター
木原実 & そらジロー12/24 (日本テレビ)
ありがとうございました。

繋がりを伝えたい体験教室

「安藤さんはミツバチから食べ物もおうちも取って悪い人だ」。小学二年生の女の子に怒られたことがありました。何度か目の「ミツバチ観察会」でのこと。若い私はその一言にすっかり意気消沈してしまいました。突き詰めて考えれば、養蜂家も、蜜ロウソクを作る私も、さらには消費者もいないほうが自然にはいいのです。

環境教育のお手伝いになればと、蜜ロウソク製造をはじめた二十年程前から、ミツバチ観察会や蜜ろうそく作り体験、森の案内などを行う「体験教室」も並行して取り組んでいます。「自然と人の距離を縮めたい」。製造も体験も、純粹にそう思って始めたことでした。

私たち人間の衣食住が多くの動植物の命をいただいて成り立っているように、蜜ロウソクも小さなミツバチ達の命の恵みです。一匹が一生かかって集められる蜜の量は、わずか小さじ一杯程度。さらに、そのハチミツを若い働き蜂が食べて、おなかの中で十分の一の蠟（ろう）に作りかえ、分泌し、巣を作ります。巣箱内の必要ない場所に作られた邪魔な巣を収穫しているといえど、百グラムの蜜ロウソク一本には、概算で三百匹以上の一生涯の働きが詰まっているのです。

蜜蠟は、ロウソクのほかに、口紅やクリームなどの化粧品、軟膏や座薬などの薬品、木や皮製品などの仕上げ剤、鋳造の蠟型、接ぎ木、画材、絶縁、ろうけつ染め、コンピューターの基板接着、食蠟なのでガムや焼き菓子にも使用されています。今や蜜蠟は、私たちの生活から切り離すことのできないありがたい恵みとなっているのです。

若い私は悩んだ末に、教室名をこれまで使っていた「ミツバチの森体験教室」から「ハチミツの森体験教室」に変えてみました。始まりの視点を「ミツバチ」ではなく「ハチミツ」や「蜜ろうそく」に変えてみたのです。おいしいハチミツや優しいあかりの蜜ろうそくは、どうやって私たちの前に表れるのか。その繋がりをたど



ミツバチ観察会

ってみることにしました。

秘めたコンセプトは「ミツバチや自然に感謝」。それまでの「ミツバチや自然と仲良く」の漠然としたコンセプトはきっぱり止めました。

何度か実践しているうちに、子どもと一緒に参加したお母さんから「うちの子はお皿にこぼれたハチミツをぺろぺろ最後まで舐めるようになりました」と感想の手紙が届きました。なんだか正解をいただいたようで嬉しくなりました。そして、似たような感想は度々いただけるようになったのです。

世の中の動植物は、「もらって返す」の食物連鎖で繋がっていますが、私たち人間は多くの命をいただいても何も返せてはいません。人間がなにも返せないのなら、せめて、食べる度、使う度に、素直な「感謝」の念を感じることで返せないでしょうか。

繋がりを知る体験をすれば、そこに必ず親しみや感謝といった愛情の念が生まれ、それは一生涯のものになります。その気持ちこそが、食べ残しやムダ使い、無益な殺生や自然破壊を減らすことに繋がると私は信じています。

生産や製造する者の多くは、他の命に手を掛け消費者に渡す仕事です。せめて私はその一人として、養蜂と自然の繋がりを伝えるという一片の役割を担っていこうと思っています。そして、多くの分野で繋がりを知る機会が更に増えていくことを心から願っています。

イベントお知らせ

■ スノーランタンの森づくり



写真/堀内孝氏

今年も雪のハチ蜜の森を蜜ろうキャンドルの灯りで照らします！雪が青白く見える頃、思い思いのスノーランタンに点灯されると、寒いけれどあったかな幻想的な森が浮かび上がります。

会場のAsahi自然観コテージやホテルに宿泊なさってゆっくりご参加もお勧めいたします。

日時 1月31日（土）午後1:30～暗くなるまで

場所 Asahi自然観内

空気神社駐車場から50m登った所

内容 1. 蜜ろうソク作り

2. スノーランタン作り

3. 点灯会

(ハチミツたっぷりホットココア付き)

参加費 大人2500円 小人2000円

(蜜ろう材料費・コテージ使用料・保険など)

定員 20人位 申し込みは一週間前まで

詳細はホームページをご覧ください

<http://www.mitsurou.com/board.html>

※ナショナルジオグラフィックの取材で撮影下さった堀内孝さんの写真も見られます

・スタッフしながら参加（参加費無料）下さる方も数人募集いたします。

宿泊の方は、Asahi自然観サイトをどうぞ

<http://www.shizenkan.jp/>

2009年主催講座の年間予定

■ミツバチ観察会 5/24

ネットをかぶって間近でミツバチの生活を見学します。

トチノキの花も見に行きます。定員15人

■大朝日岳山麓ハチ蜜の森を訪ねる 7/5

初夏のハチ蜜の森原生林を訪ねます。定員10人

■ハニーツリーキャンドル製作会 9/20

人気の枝型キャンドル「ハニーツリー」を作ります！

定員10人

■かぼちゃランタンで小人の村づくり 11/7

紅葉のハチ蜜の森にかぼちゃランタンを並べて小人

の村を作ります。定員20人

※詳しくはホームページをご覧ください。

※主催講座に関わらず、団体などで申し込んでいただくと時間や季節に合わせた体験教室を実施いたしております。詳しくはお問い合わせ下さい。

編集後記

石油製品の使用を減らすことが一番の温暖化対策ということで、仕事場の暖房を再び薪ストーブにしようという計画中です。ずいぶん前に有名メーカーのものをいただいていたのですが、面倒くさがるの性格と、まわりのスペースをとりそうで、ずーっと保留になっていたのです。

薪は裏の朝日川の流木も使おうと思っています。河原には大きな岩があって、そこに必ず大木が引っかかるのです。私の祖父もよく拾ってきていました。昔は、山も河原も柴一本落ちてなかったと年輩の方に聞きました。

ソーラーパネルもこの際、設置しようという問い合わせをしましたが、まだ一家 250 万円近くかかるとのこと。安価なもの登場を期待しています。

仕事場の照明はほとんど白熱球でしたが、光量調整の照明以外は全て電球型蛍光灯にしました。

ガソリンの除雪機は買わないでスノーダンプでメタボ対策に。仕事前に除雪すると体が温まってすぐに仕事にかかれます。

10 年前に作った「封筒作り型紙」をまた作りました。紙箱を頼んでいる紙工屋さんに頼んでいます。現在は大きめの A4 三つ折りも製作中です。ホームページでお分けする予定です！

通信ご購入について

- ・ 定期購読を希望される方は、1000 円（おおよそ 5 年分、80・50 円切手可）をお送り下さい。
- ・ 購読期限は、お送りした時の封筒の住所下に、たとえば 12-32 と号数を明記しています。